

第6章

地域の個性が輝き融和するまち

第1節 地域の風土に根ざした魅力や資源を守り育てる

第2節 地域間連携により、大きな魅力を創出する

第3節 快適な生活環境を実現できる地域にする

第4節 だれもが利用しやすい、生活を支える公共交通を確保する



第1節 地域の風土に根ざした魅力や資源を守り育てる

■現状と課題

本市は合併により、多様な伝統文化や地域特性を有する地域となりました。今後の地域の発展や活力は地域それぞれが持つ地域特性を最大限に発揮する事が重要であり、市民生活の質の向上により豊かさを実感できる社会を実現するために、離島や半島などをはじめ、各地域における活力を市民とともに推進できる地域おこしの取組みが必要とされています。

市民と行政が一体となったまちづくりを進める仕組みとして、地域の活性化と合併による不安解消などから、旧町単位に地域まちづくり委員会を設置し、活発な検討・提案を行っていますが、今後、地域の課題の解決に向けた住民の自主的、協働の視点によるまちづくりへ取り組む必要があります。

また、市内各地域で活動する団体に対し、地域づくり基金事業助成金を創設し、地域おこしがしやすしい支援体制づくりをしています。今後、団体の育成、掘り起しにより、地域の活性化へ取り組む必要があります。

本市をはじめ全国各地域では、人口減少、地域コミュニティの崩壊、財政負担の増加、行政需要の多様化などさまざまな問題を抱えており、コミュニティの再構築とともに新たな視点・発想による地域の活性化が求められています。こうした中、技術・技能を持った団塊の世代[※]が、2007年に大量に定年退職の時期を迎えますが、この世代には就労意欲を持ち社会活動の継続を希望する人たちも多く、活躍の機会を支援していくことが求められています。

そのためには、こうした日本の元気を作ってきた団塊の世代[※]をターゲットに、UJIターン[※]のしやすい環境を整備し、コミュニティの活性化を図りながら、多様な働き方による再雇用の場の

提供や地域活力の向上に寄与できるような仕組みを構築していく必要があります。

本市の地勢上の特徴でもある離島地域は、平成17年の高齢化率[※]が、網地島では63%、田代島では84%と高く、今後、島の存続に不安が生じています。このため、島の再生のためにも、島民とともに島の資源を活かした来島者との交流や、団塊の世代[※]などのUJIターン[※]者の定住により、コミュニティの活性化を図っていく必要があります。

湊地区においては、平成18年5月に石巻赤十字病院が移転するなど、空洞化が著しい状況ですが、平成17年11月には、市有地を活用した五松山グランドゴルフ場が開設されるなどの新たな動きもあり、今後も、地域と一体となった取組みを支援していく必要があります。

今後、第1次産業をはじめとする後継者不足や、ライフスタイル（生活の仕方）の変化などによる未婚の男女の増加により、人口減少、少子化、労働力の不足、地域活力の低下などの懸念が生じており、本市も例外ではない状況にあります。

そのため、雄勝硯や鯨工芸品など本市が持つ伝統工芸や、北上地区の茅葺職人、稲井地区の石材工などに携わる後継者の育成を図り、次世代へ継承していく取組みについて、検討していく必要があります。

本市の新たな取組みとして、東北楽天ゴールデンイーグルスとの連携によりプロ野球の開催をはじめ、少年野球教室の開催など球団と接点を持つとともに、今後、ベガルタ仙台や仙台89ERS（エイティナイナーズ）などを含め新たな地域資源として、今後の地域おこしの可能性を検討していく必要があります。

■施策の体系

第1節 地域の風土に根ざした魅力や資源を守り育てる

1 個性ある地域をつくる

1 個性ある地域をつくる

■市民とともに目指すまちの姿

地域の特性に応じた、個性ある地域づくりが行われています。

■役割分担

【市の役割】

地域特性に応じた地域振興の取組みを支援します。

【市民に期待する役割】

自分たちの住んでいる地域への愛着を深め、地域活動へ積極的に参加します。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
地域づくり基金を活用した事業の実施数（事業／年）	平成18年度地域づくり基金事業助成金関係資料 担当：総合政策課	14	17	20

■施策の展開

◆地域おこし活動の支援

- 地域づくり基金事業助成金を活用して、地域住民が主体的に取り組む地域おこし活動や市民の一体感の醸成に資する事業に対して、適切な支援を推進します。

◆UJIターン[※]の支援

- 団塊の世代をはじめ、県外や首都圏からの移住者の受け入れ等がスムーズに進められるような窓口の設置や情報提供など、総合的な受け入れ体制の構築に取り組みます。

◆離島・半島の振興

- 過疎計画、辺地計画などを活用し、地域住民とともに離島・半島の振興を図ります。
- 離島をメインとしたパンフレットの作成など、島民と一体となった島の情報発信力強化に取り組みます。
- 空き家や空き地の有効活用や、島内の案内体制の確立など、定住者人口の促進に努めます。

- 島を体感できる新たな体験プログラムの開発などにより、交流人口の増加を図ります。
- 緊急通報システムの構築や夜間・緊急時の患者搬送体制の整備など、島民が安心して生活できる環境を整えます。

◆湊地区の活性化の推進

- 石巻赤十字病院跡地の活用を含め、湊地区の住民とともに、活性化策の検討に取り組みます。

◆伝統産業等の継承

- 国の伝統的工芸品「雄勝硯」や鯨の歯・ヒゲなどの伝統工芸、北上地区の茅葺職人、稲井地区の石材工など、地域独自の産業として次世代へ継承する取り組みを行います。

◆スポーツを通じた地域振興の充実

- 東北楽天ゴールデンイーグルスをはじめ、ベガルタ仙台、仙台89ERSなどとの接点を持ちながらスポーツ交流を通じた、新たな地域おこしを検討します。
- 子どもから高齢者まで楽しめるスポーツ大会などを開催します。

第2節 地域間連携により、大きな魅力を創出する

■現状と課題

道路は、都市と地域を支えるとともに、活力の源である人、物、情報、文化の交流基盤です。

本市は、一般国道45号、108号、398号を中心として、主要地方道12路線及び一般県道19路線を骨格に形成され、平成19年には、三陸縦貫自動車道が桃生津山インターチェンジまで延伸され、高速交通の利便性が高まっています。

市内各所においては、交通渋滞が慢性化している箇所や狭隘・屈曲した箇所[※]が見受けられ、一般国道398号の旧北上川に架かる内海橋など、老朽化している橋も多くなっています。

また、市域面積が広く、リアス式海岸や半島部の地勢上の特徴により、市内中心部までの所要時間が鮎川からは約50分、雄勝から約40分を要す

る状況であるほか、通学路が未整備の箇所も見受けられます。

こうしたことから、本市では幹線道路を軸としながら、都市計画街路、市道及び生活道路を有機的に結合し、地域格差の是正と市内各地域、市内と市外を結ぶ総合的な道路ネットワークによる一体的な地域づくりが必要とされるとともに、広域的な連携強化のためにも、石巻新庄道路の整備促進を図ることも求められています。

また、市道においては、破損や危険と思われる箇所が見受けられるため、安心安全で円滑な道路環境の維持管理や、市民の愛護精神による道路保全活動（アドプト活動[※]）を通じた良好な道路環境づくりも求められています。

■施策の体系

第2節 地域間連携により、大きな魅力を創出する

1 国・県道の整備を促進する

2 日常生活を支える道路網を形成する

1 国・県道の整備を促進する

■市民とともに目指すまちの姿

各地域間の移動が円滑に行える道路網が整備され、地域間交流が盛んに行われています。

■役割分担

【市の役割】

国・県道の一体的な整備促進を積極的に要望します。

【市民に期待する役割】

道路整備事業に対する理解と協力を努めます。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
幹線道路の整備状況に関する満足度（％）	平成17年総合計画策定のための市民意識調査実績 担当：都市計画課	60	65	70

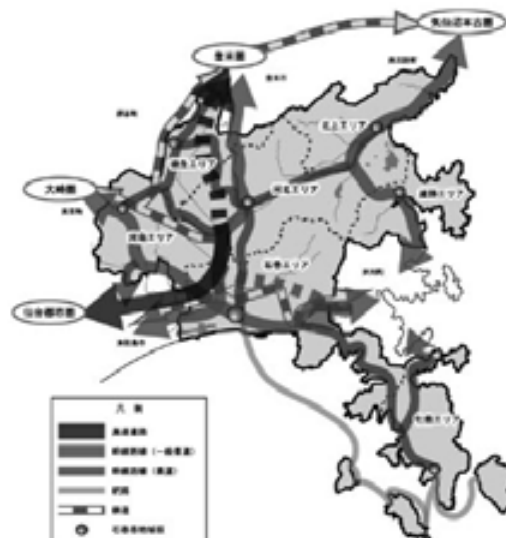
■施策の展開

◆高速交通体系整備の促進

- 国・県への要望を強化し、三陸縦貫自動車道及びアクセス道路の整備や料金の値下げなど、さらなる利便性の向上に向けて取り組むとともに、石巻新庄間の道路整備を促進します。

◆都市間交通体系整備の促進

- 県への要望を強化し、一般国道398号「石巻バイパス」や主要地方道「石巻鮎川線」などの国・県道の整備を促進します。
- 旧北上川東西の市街地を結ぶ新内海橋の架け替えを促進します。



2 日常生活を支える道路網を形成する

■市民とともに目指すまちの姿

人にやさしい安全で快適な道路環境と愛護精神が共有できる体制が整っています。

■役割分担

【市の役割】

安全な市道の整備と適正な維持管理の徹底に努めます。

【市民に期待する役割】

身近な生活道路の清掃を行うなど、愛護に努めます。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
スマイルロードサポーター制度による道路愛護団体数（団体）	平成18年12月現在スマイルサポーター及びふれあいサポーター認定状況 担当：道路課	12	17	25

■施策の展開

◆市道整備の推進

- 市内地域間を連携する幹線市道の整備を推進します。
- 市民の通勤通学や買い物など、日常生活を支えるための市道の整備を推進します。
- 私道を整備するための助成制度を継続し、市民とともに身近な道路の整備を促進します。

◆適正な市道維持管理の推進

- 定期的な巡視、点検により、適正な市道の維持管理や、トンネルや橋梁等の重要構造物についても、適正な保守点検に取り組みます。

◆人にやさしい道路整備の推進

- 歩行者が多く行き交う駅周辺や中心市街地における歩道等のバリアフリー化を推進します。

◆道路保全活動（アドプト活動[※]）の支援

- 道路愛護精神の醸成のため、積極的な啓発活動を展開し、道路愛護団体の育成を図るなど、道路保全活動（アドプト活動[※]）の支援に取り組みます。



第3節 快適な生活環境を実現できる地域にする

■現状と課題

地域の各エリアは、山・森・川・海・島の自然環境に恵まれており、それぞれの特徴を活かした土地利用が必要とされています。今後、市の将来のあるべき姿を示し、都市化や産業構造の変化に伴った、秩序ある計画的な土地利用の推進のため、国土利用計画や都市計画マスタープランの策定が求められています。

生活に必要な都市基盤については、これまでも安全、安心を基本に合併前の旧市町において、規模や基準に応じ、整備推進を行ってきました。今後、新市として均衡ある整備を図るとともに、各施設等を連携し活用していくことが必要とされています。

また、住居表示についても、だれもがわかりやすく、訪れやすい整備が必要とされています。

住宅地などについては、民間活力を活かした土地区画整理事業により、公園、区画道路等の整備を含めた良好な居住環境が形成され、現在、蛇田地区では3事業、南境地区と渡波地区ではそれぞれ1事業が実施されております。

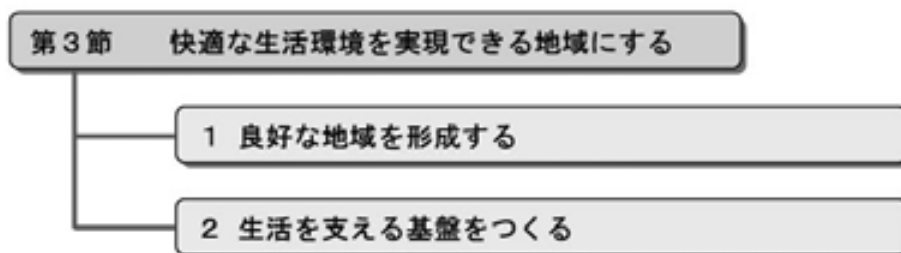
市営住宅については、築50年を超える住宅もあるなど、施設や設備の老朽化により居住環境が悪化している箇所も見受けられるため、今後、市民に対して柔軟かつ公平に住宅を供給できる仕組みを構築しながら、居住環境の整備に取り組む必要があります。

上水道については、平成17年の普及率では、99.4%と、ほぼ全域に普及していますが、一部老朽化し、改修が必要な施設も見受けられます。

墓地整備については、霊園2箇所、墓地14箇所を管理していますが、このうち、石巻霊園においては、分譲が完了したことにより、新たな墓地需要に対応した新墓地建設に取り組む必要があります。

情報基盤については、ユビキタスネット[®]社会の実現に向けた地域情報化が進められており、本市においても地域イントラネット[®]整備が終了しているところですが、携帯電話やブロードバンド[®]の使えない地域が未だ存在していることから、これらを解消することが求められています。

■施策の体系



1 良好な地域を形成する

■市民とともに目指すまちの姿

地域の特性に応じた土地利用が図られ、住みやすい地域が形成されています。

■役割分担

【市の役割】

国土利用計画や都市計画マスタープランに基づく土地利用の誘導による、秩序ある都市づくりを推進します。

【市民に期待する役割】

土地利用への理解と協力を努めます。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
街並みや景観の整備に関する満足度（％）	平成17年総合計画策定のための市民意識調査実績 担当：都市計画課	74	80	85

■施策の展開

◆秩序ある土地利用の推進

- 本市の今後を見据えながら、国土利用計画及び都市計画マスタープランを策定し、計画的・総合的な土地利用を推進し、地域各エリアの特色を継承する土地利用を図ります。
- 国土調査により、土地の正しい位置・形・地番・面積などの明確化に取り組みます。

◆適正な土地開発の推進

- 地区の特性に応じた地域地区指定や地区計画の導入に努め、良好な市街地の形成を図ります。
- 民間活力を活かした土地区画整理事業について、優良な宅地が確実に供給されるよう指導支援に取り組みます。
- 開発許可制度に基づく適切な指導や地区計画を活用した良好な景観形成を推進します。

◆暮らしやすさの推進

- 市街地の住所を分かりやすくするため、住居表示の整備を計画的に実施します。



2 生活を支える基盤をつくる

■市民とともに目指すまちの姿

それぞれの地域に即した、安心・安全・快適な都市基盤が整っています。

■役割分担

【市の役割】

地域の実情に応じた都市基盤の整備及び
均衡ある整備を図ります。

【市民に期待する役割】

良好な都市環境形成へ協力します。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の 目標値	10年後の 目標値
インターネットなどの情報 通信基盤の整備に関する満 足度（％）	平成17年総合計画策定のための 市民意識調査実績 担当：情報政策課	62.5	70.0	80.0

■施策の展開

◆上水道整備の推進

- 安全でおいしい水の安定供給を目標とし、原水施設や配水池などの整備と維持管理を推進するとともに、老朽配水管の布設替えを計画的、効果的に推進します。
- 災害時や緊急時にも対応のできるライフライン機能の確保を図ります。

◆公営住宅整備の推進

- 多様化する市民ニーズに対応した良質な公共住宅の供給により、高齢者や子育て世帯などの入居を円滑にし、住宅セーフティネット[※]の構築に取り組みます。
- 既設住宅の特性や地域のニーズに合わせて建替え事業・改善事業・維持保全などの手法を取り入れ、老朽化した公共住宅の計画的な整備を推進します。

◆高度情報化の推進

- ICT（情報通信技術）[※]を活用した快適・安心・安全な情報を提供するとともに、市民参画づくりを推進します。
- 電子入札、電子申請、電子調達等の電子市役所を推進するとともに、個人情報を守られる安心安全なネットワークの確保を図ります。

◆地域イントラネット[※]の柔軟活用の推進

- 地域公共ネットワークの光ファイバー網を民間事業者の有償開放し、携帯電話不通地域や地上デジタル放送難視聴地域の解消に取り組みます。
- 高速無線技術を活用し、ブロードバンド・ゼロ地域[※]の解消を図ります。

◆墓地整備の推進

- 市民の新たな墓地需要に対応した新墓地の建設に取り組みます。

第4節 だれもが利用しやすい、生活を支える公共交通を確保する

■現状と課題

本市の公共交通としては、鉄道、バス、船舶があり、陸上交通では、仙石線、石巻線、気仙沼線のJR3路線に加え、市内の各地域（旧市町）を結ぶバス路線が運行しています。

仙石線については、通勤、通学などに利用されるとともに、東北新幹線へのアクセス鉄道となっていることから、所要時間の短縮や乗り継ぎの利便の向上が求められております。

また、石巻線についても、蛇田地区の市街化に伴い、新駅の設置が求められております。

各地域においては、合併後においても、従前の市民バス（旧町民バス）や福祉バス、また、一部地域では、住民主体の住民バスや乗合タクシー[※]、通学バスの運行など地域独自の交通施策を継続しており、こうした不均一な交通施策の検証や再

編、新たな交通手段の導入など、新市にふさわしい交通体系の確立が求められています。

また、路線バスについては、利用者の減少により赤字路線が拡大し、運行維持がますます困難な状況になっていることから、高齢者や学生など交通手段を持たない方々の移動手段の確保が緊急の課題となっています。

離島航路については、将来にわたり島民の生活航路として、安全かつ安定的に航路が維持されるよう支援を行っていく必要があります。

特に、老朽化に伴う新たな船の建造や、乗客や車が安全に乗り降りできる浮き桟橋の建設など、当該航路の利便性や安全性の向上に取り組んでいく必要があります。

■施策の体系

第4節 だれもが利用しやすい、生活を支える公共交通を確保する

1 だれもが移動可能な手段を確保する

2 離島の交通手段を確保する

1 だれもが移動可能な手段を確保する

■市民とともに目指すまちの姿

交通不便地区が解消され、だれでも利用しやすい地域交通が確保されています。

■役割分担

【市の役割】

地域の実情に応じた公共交通サービスと鉄道の利便性の向上を図ります。

【市民に期待する役割】

公共交通機関の利用に努めます。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
公共交通サービスを受けられる人口の割合（％）	石巻市総合交通計画基礎資料 担当：総合政策課	80.7	90.3	100.0

■施策の展開

◆バス交通等の充実

- ・「（仮称）石巻市地域公共交通会議」を設置し、地域に適したバス運行計画を策定します。
- ・石巻地域と各地域とを結ぶ幹線交通については、市が路線の維持を図ります。
- ・各地域ごとの「運行協議会」などの設置を支援するとともに、円滑な運営のための補助制度の整備を図ります。
- ・公共交通の利用促進のため、市民への啓発活動を推進します。

◆鉄道交通の充実

- ・新駅設置や駅周辺の環境整備など、利便性の向上を図るため、JRや関係機関へ積極的に働きかけを行います。



2 離島の交通手段を確保する

■市民とともに目指すまちの姿

島民の生活の安全と本土までの移動の利便性が確保されています。

■役割分担

【市の役割】

本土と離島の安全で安心な航路を確保します。

【市民に期待する役割】

離島の魅力を再発見し、観光などでの利用に努めます。

■まちづくり指標

まちづくり指標名（単位）	説明	現状値	5年後の目標値	10年後の目標値
離島航路の年間利用者数（人/年）	平成18年度実績 担当：総合政策課	71,600	71,700	71,800

■施策の展開

◆離島航路の維持と利便性の向上

- 高速カーフェリーの導入及び石巻・田代島・網地島・鮎川への浮き桟橋設置に取り組みます。
- 離島航路運航調整会議において、運航時間、運航回数などを検討し、航路利便性の向上を図ります。
- 航路事業者が安定して運航を行うための運転資金の貸付や経営安定化のための助成等の支援を行います。

